第 62 回日本神経学会学術大会総括

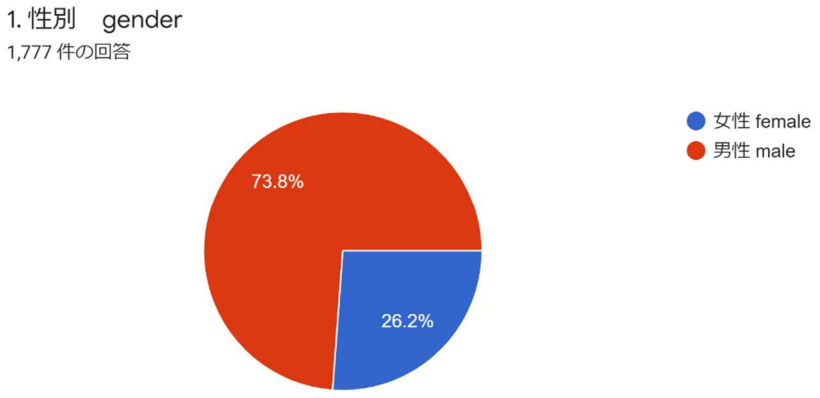
ー全体アンケートを中心にー

はじめに

第 62 回日本神経学会学術大会は、京都国際会館を会場として、5 月 19 日（水）から 22 日（土）まで 4 日間の日程で行われた。昨年同様、コロナ禍でのハイブリッド形式の開催となったが、大会参加者数は現地参加 1369 名に WEB 参加を合わせて約 7200 名の参加総数となり、現地においても感染対策を徹底した上、無事に閉幕した。本稿では、大会終了後に実施された全体アンケートの結果を示しながら、第 62 回大会について総括したい。

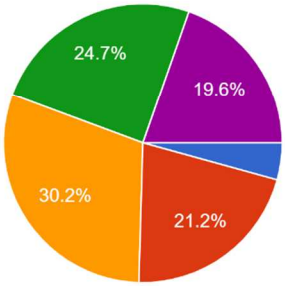
A. 参加者について

- これまで同様、アンケートは大会終了後 1 週間、Google システムの Web 入力式で実施した。第 56 回大会以降、本システムで全体アンケートが実施された 5 大会中、最多の回答総数（1,777 件）が得られ、後に述べるハイブリッド開催に関する関心の高さがうかがえた。
- Q7 の参加日に関して、例年は初日（水）と最終日（土）が多いが、本大会では最終日が一番少なく、多数を占める WEB 参加者がアクセスのしやすさから平日の会期中に参加していることが推察された。
- Q8 のポストコロナにおける学術大会開催形式に関しては、従来のオンサイト支持 13.5%に対し、ハイブリッド開催支持が 77%と大きく上回った。自由意見でも今回のハイブリッド開催を評価し、コロナ収束後もハイブリッド形式の継続を希望する声が多く寄せられた。



2. 年齢　age

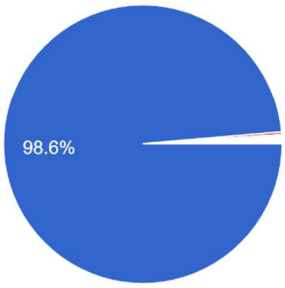
1,777 件の回答



- ～30歳未満 Under 30 years old
- 30歳以上～40歳未満 between 30 and 40 years old
- 40歳以上～50歳未満 between 40 and 50 years old
- 50歳以上～60歳未満 between 50 and 60 years old
- 60歳以上～ 60 years old and over

3. 国籍　nationality

1,777 件の回答

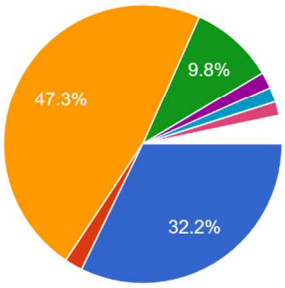


- 日本 Japan
- USA
- China
- Malaysian
- Malaysia
- Hong Kong
- china
- 中国

▲ 1/3 ▼

4. 所属　affiliation

1,777 件の回答



- 大学 university
- 研究機関 research institute
- 一般病院 general hospital
- 開業 private clinic
- 製薬会社
- 企業
- 製薬企業
- 一般企業

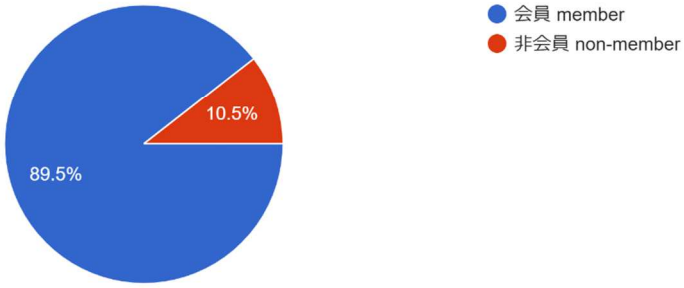
▲ 1/8 ▼

5. 職種　occupation

1,777 件の回答

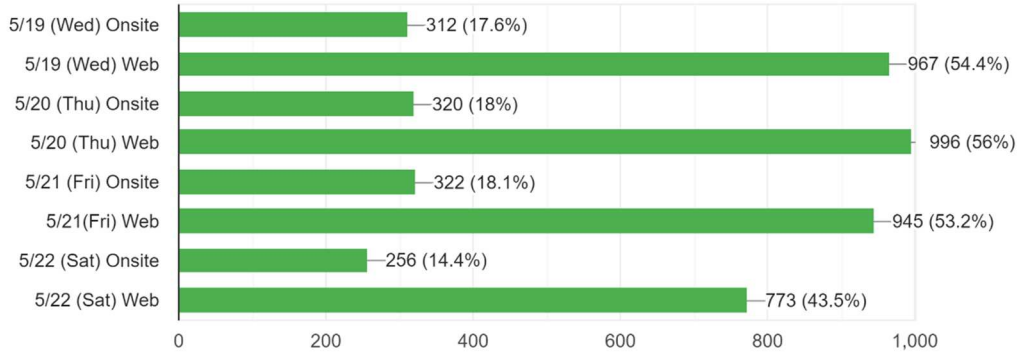
6. 会員・非会員の別　membership

1,777 件の回答



7. 会期中、何日目に参加されましたか？（複数選択可） / Which day did you attend? (multiple answers allowed)

1,777 件の回答



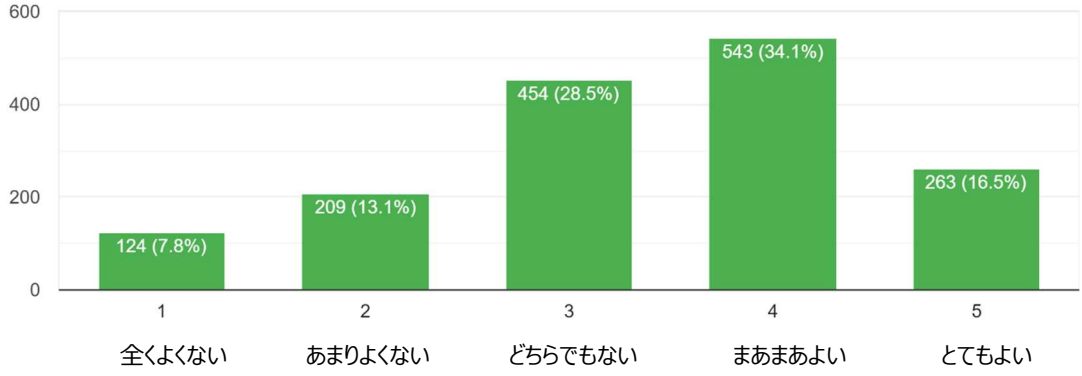
8. 今後コロナ禍が収束した場合、どのような学会の形式が望ましいと考えますか？ / When things return to normal, which conference format is your favorite?

1,777 件の回答

B. 全体の運営について

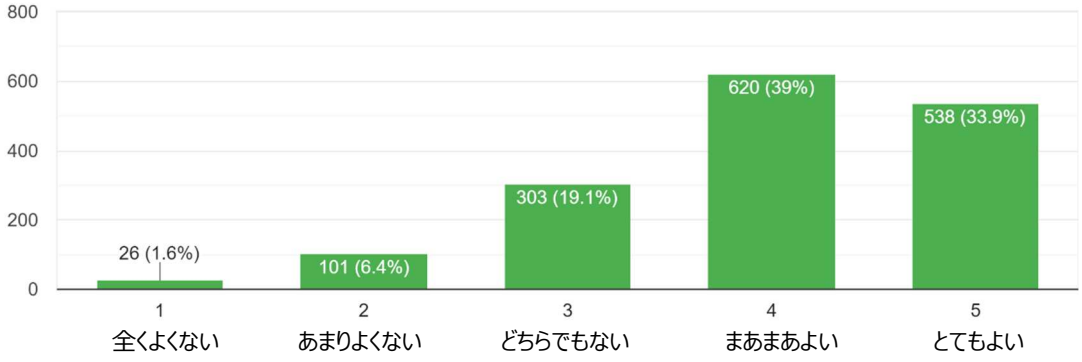
1. （Web ライブ視聴者 1,593 件の回答）Web 視聴参加に関するご案内は適切でしたか？

- 否定的な回答が 21%と比較的高く、次大会以降ハイブリッド開催を継続する場合は Web 視聴に関する案内の改善が望まれる。自由意見では、「Web 視聴のアクセスに苦労した」、「Web 視聴の案内メールが届くのが遅く、不安だった」などの意見が見られた。



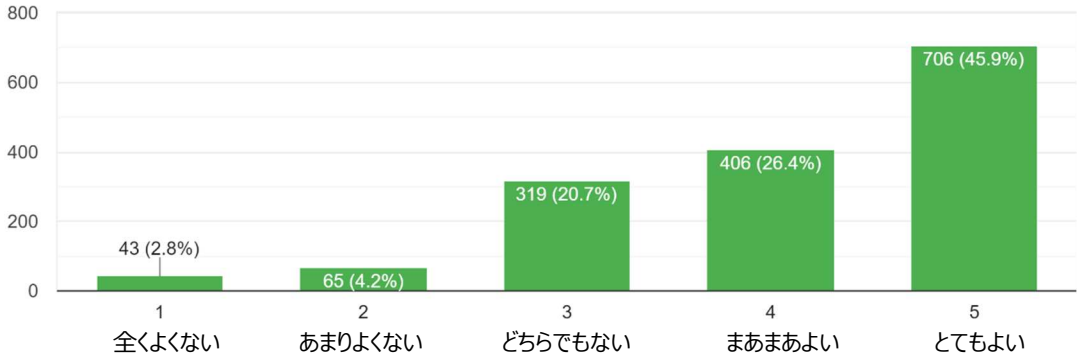
2. （Web ライブ視聴者 1,588 件の回答）Web 画面は問題なく視聴できましたか？（動画、音声など）

- 肯定的意見が 73%と多く、Web 画面（動画、音声など）に関しては概ね満足いただいたと考える。



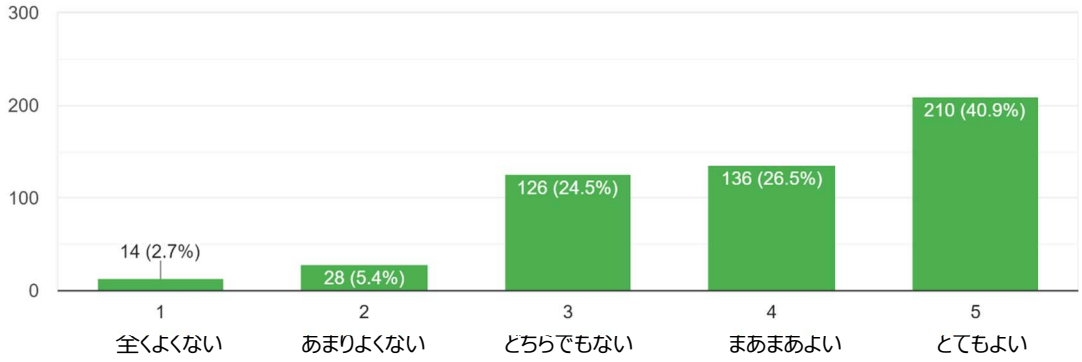
3. （Web ライブ視聴者 1,539 件の回答）5 月 24 日（月）よりオンデマンド配信がされています。オンデマンド配信について、どう思われますか？

- 72%が肯定的な回答で、否定的回答は 7%に留まり、史上初のオンデマンド配信の評価は高かった。自由意見でも今大会の評価すべき点としてオンデマンド配信の採用という意見が多数見られた。



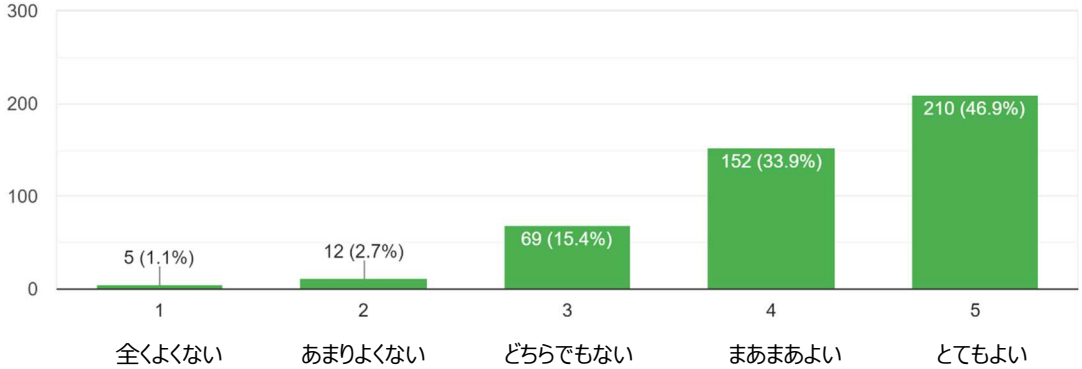
4. （現地参加者 514 件の回答）5 月 24 日（月）よりオンデマンド配信がされています。オンデマンド配信について、どう思われますか？

- 現地参加者のオンデマンド配信に対する評価も Web ライブ視聴者と同様に高かった。



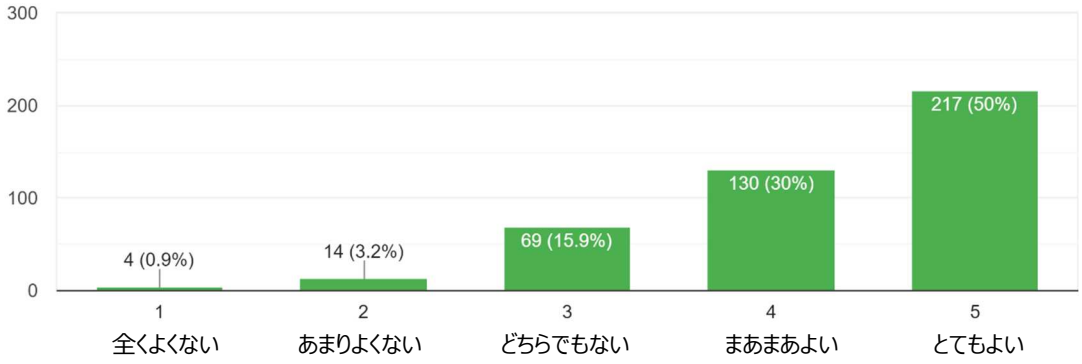
5. （現地参加者 448 件の回答）新型コロナウイルスに対する感染予防対策は適切でしたか？

- 肯定的意見は 80%を超え、現地での感染予防対策の評価は非常に高かった。自由意見でも今大会の感染対策を評価するという意見が多数見られた。



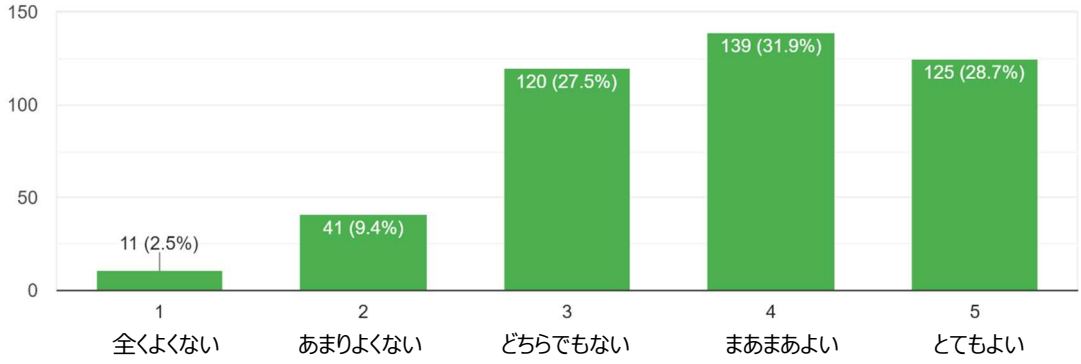
6. （現地参加者 434 件の回答）会場の広さは適切でしたか？

- 80%が肯定的な回答であり、自由意見の中に「感染対策の観点でも広い会場でよかった」との意見があった。



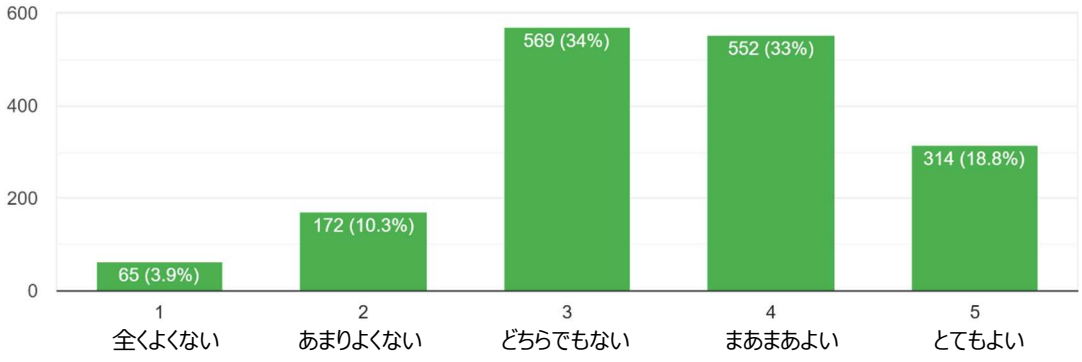
7. （現地参加者 436 件の回答）会場の案内はわかりやすかったですか？

- 60%が肯定的な回答で、概ね支持された。



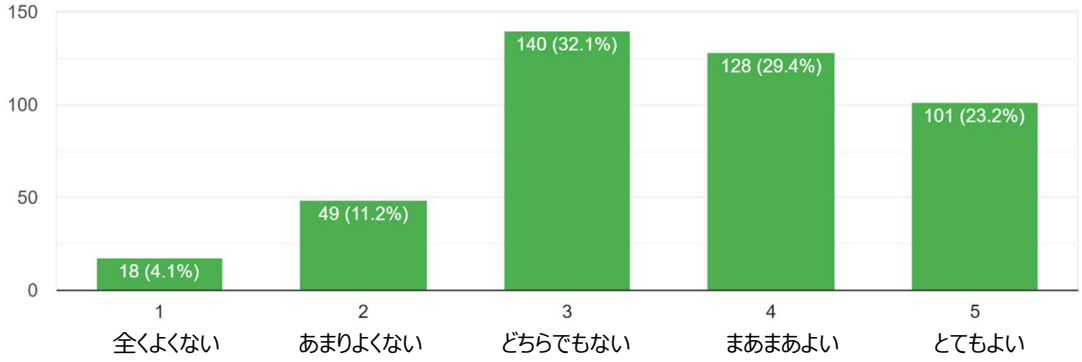
8. （WEB・現地参加者 1,672 件の回答）ポケットプログラム、抄録集の内容は役に立ちましたか？

- 第 60 回大会と比べると、肯定的回答が 14%減少し、否定的な回答が 7%から 14%へ増えた。



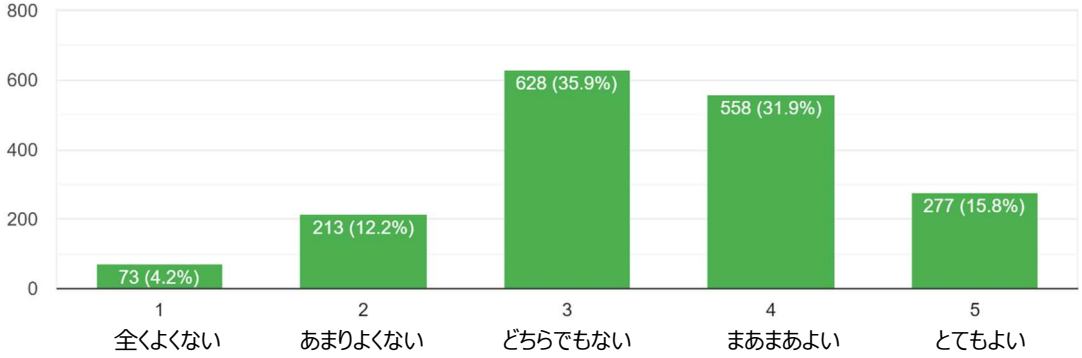
9. （現地参加者 436 件の回答）会場設備（ドリンク、休憩場所など）は満足できましたか？

- 否定的意見 15%に比し、肯定的意見が 53%を占め、現地参加者に一定の満足感を感じていただけたと考える。



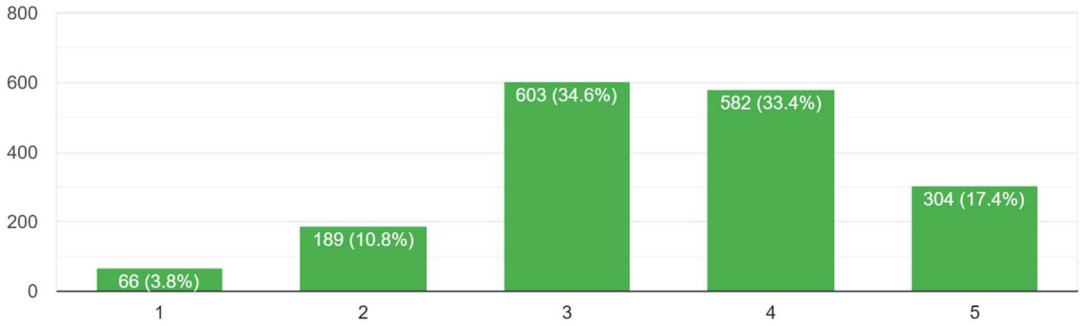
10. （WEB・現地参加者 1,749 件の回答）学術大会ホームページは充実していましたか？

- 第 60 回大会と比べると、否定的意見が 7%から 16%へ増え、肯定的意見が 56%から 48%へ減った。ハイブリッド開催に伴い例年より案内が複雑化したことが背景にあると思われ、今後もハイブリッド開催を継続する場合、わかりやすい HP への改善が望まれる。



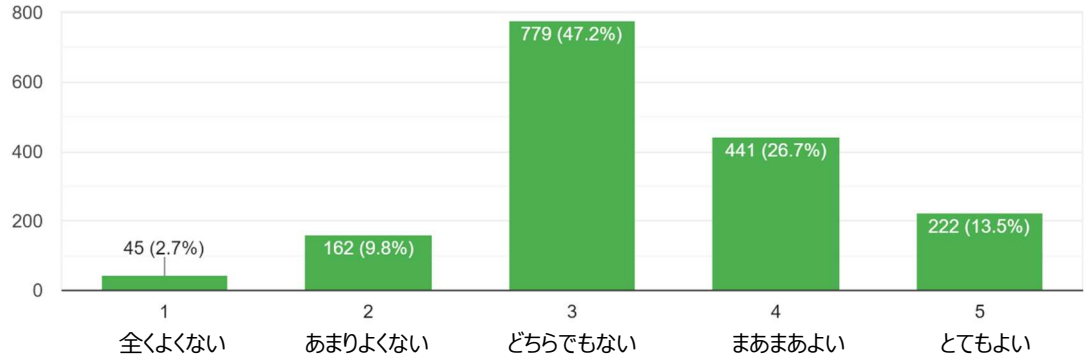
11. （WEB・現地参加者 1,744 件の回答）学術大会関連のご案内のメールは充実していましたか？

- 第 60 回大会と比べると、否定的意見 7%から 15%へ増え、Q10 と同様の要因が推測される。



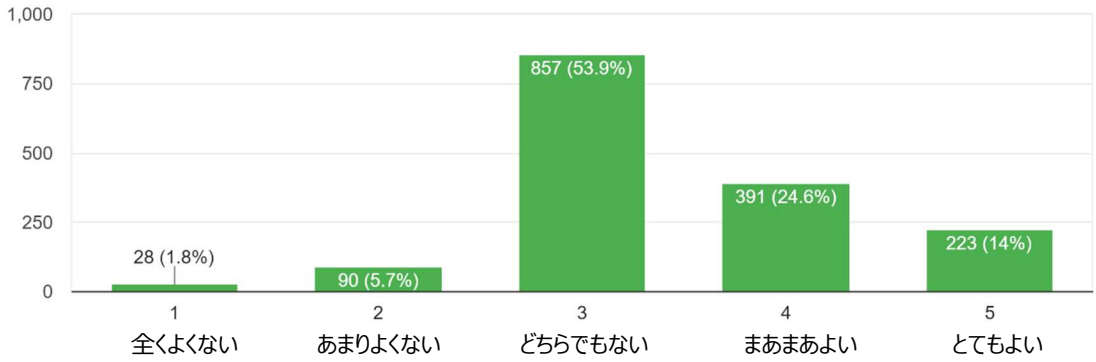
12. （WEB・現地参加者 1,649 件の回答）電子抄録アプリは充実していましたか？

- 第 60 回大会と比較すると、肯定的意見が 54%から 40%に減少し、否定的意見が 6% から 12.5%に倍増していた。ハイブリッド開催に伴い WEB 配信と現地のみの企画の識別など、抄録の見方が少し複雑になっており、今後ハイブリッド開催を継続する際にわかりやすく改訂することが望まれる。



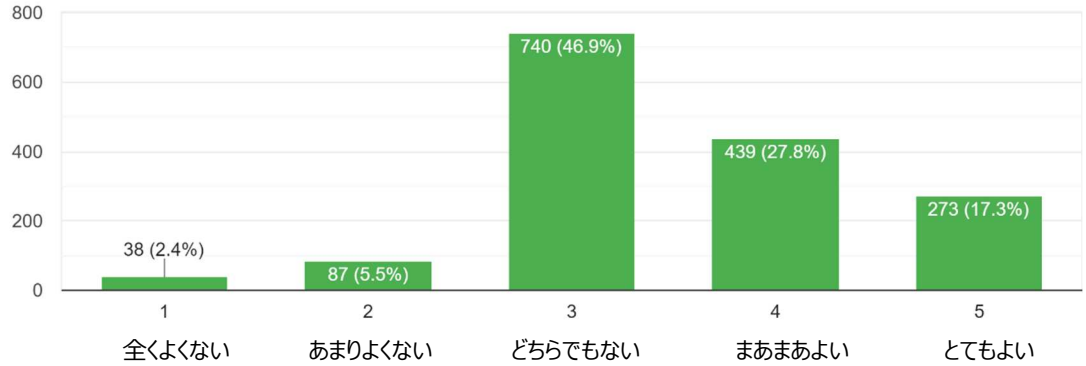
13. （WEB・現地参加者 1,589 件の回答）抄録の締め切り日程は適切でしたか？

- どちらでもないという回答が最多ではあったが、否定的意見は 7.5%と低く、抄録締め切り時期は概ね現在の時期で定着しているものと思われる。



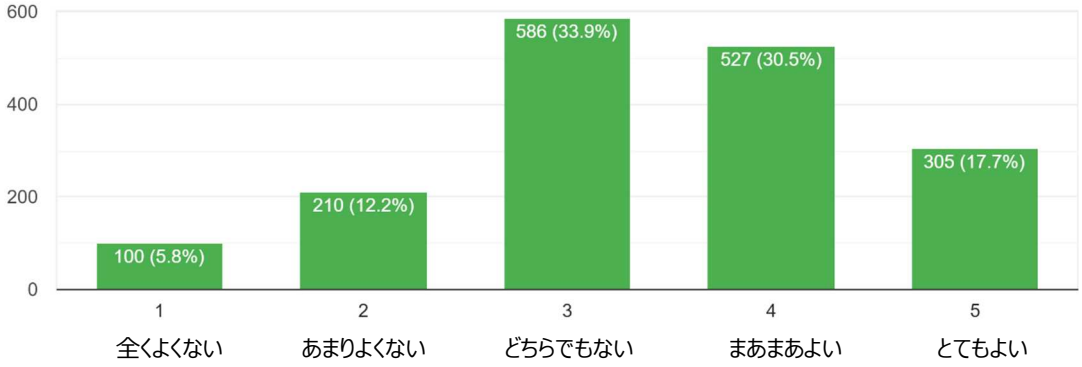
14. （WEB・現地参加者 1,577 件の回答）発表日程のご連絡は適切でしたか？

- 例年通り否定的意見は 10%未満であり、発表日程の連絡時期は概ね現在の時期で定着しているものと考える。



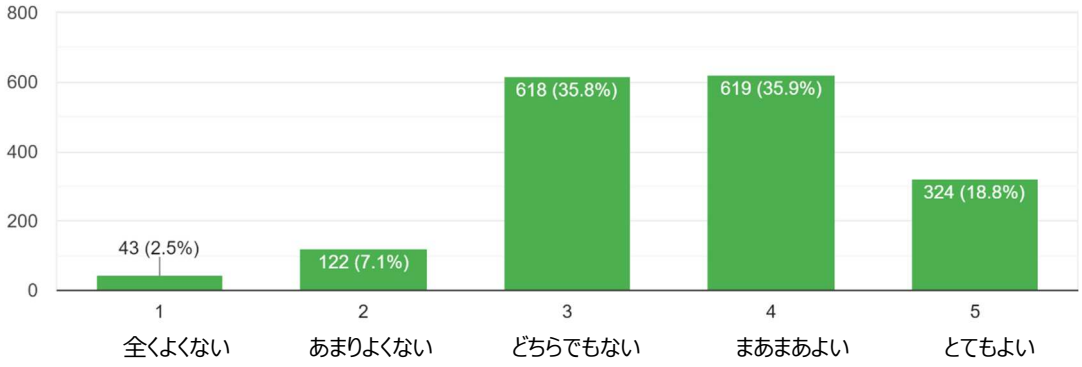
15. （WEB・現地参加者 1,728 件の回答）プログラム構成は満足いただけましたか？

- 第 60 回大会と比較すると、否定的意見が 8%から 18%へ増え、肯定的意見が 62%から 48%へ減少した。自由意見の要望で多数をしめた Web 配信への不満（配信数の少なさ、ほぼ英語セッションのみ）が反映されていると思われる。



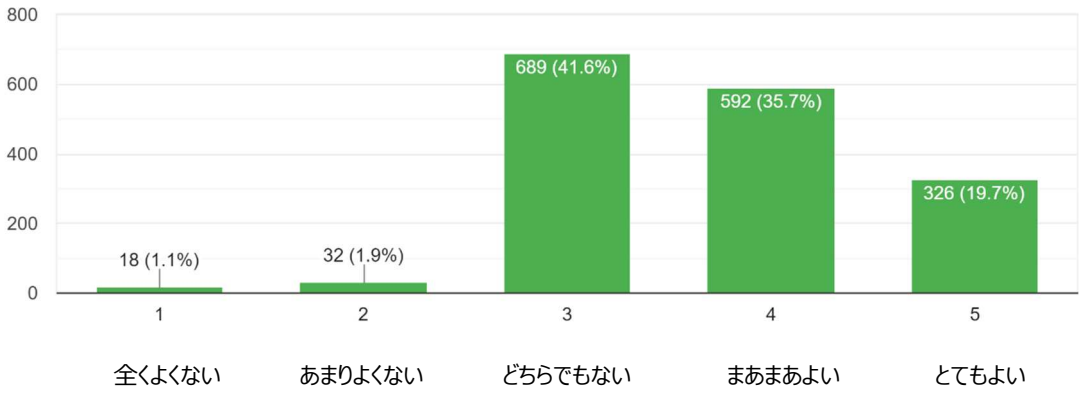
16. （WEB・現地参加者 1,726 件の回答）シンポジウムのテーマ選びはいかがでしたか？

- 肯定的意見が 55%、否定的意見が 9.6%とシンポジウムのテーマ選びは概ね支持は得られていると考える。



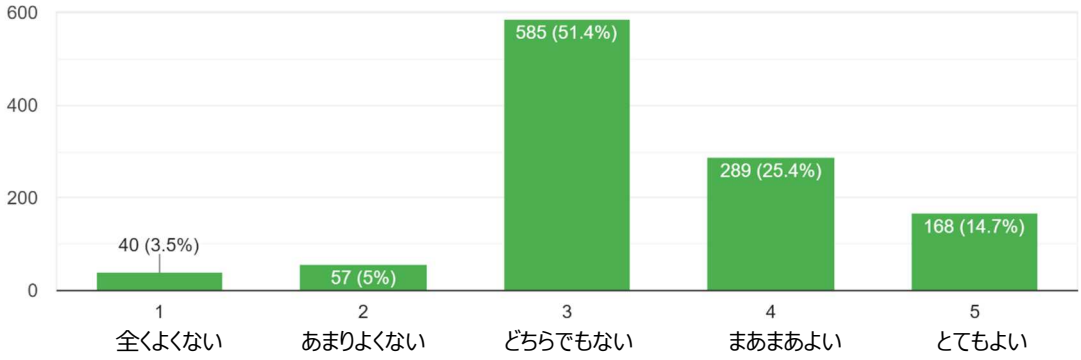
17. （WEB・現地参加者 1,657 件の回答）一般演題からもシンポジウムに採択した演題があります。これは適切でしたか？

- 否定的意見は 3%であり、一般演題からのシンポジウムへの採択については概ね支持されたと思われる。



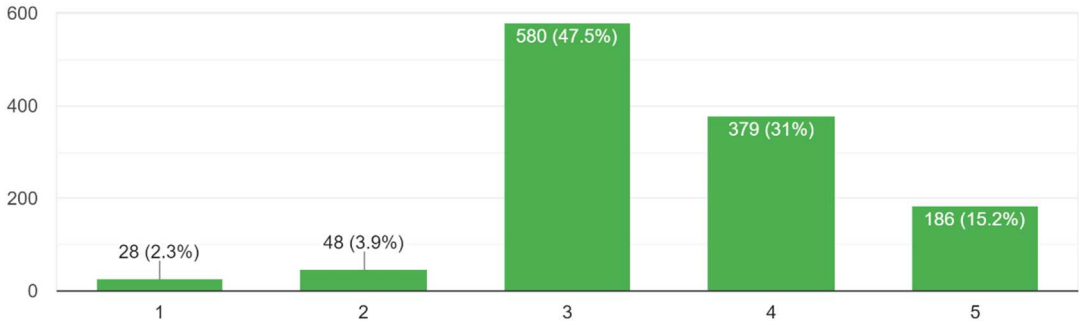
18. （現地参加・オンデマンド視聴者 1,139 件の回答）レクチャーマラソンの内容についてはどう思われましたか？

- どちらでもないという回答が 51%と最多ではあったが、否定的意見は 8.5%と少なく、一定の満足は得られていると思われる。



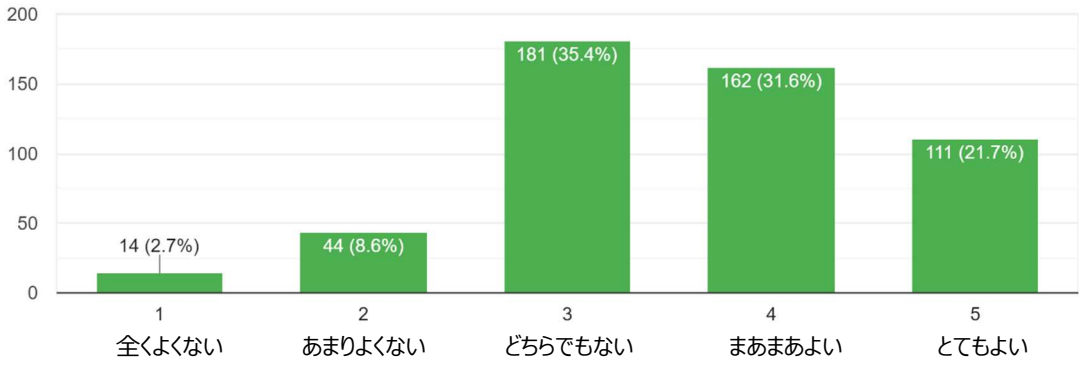
19. （現地参加・オンデマンド視聴者 1,221 件の回答）一般演題口演の発表時間（10 分）は適切でしたか？

- 肯定的意見が 46%、否定的意見は 6.2%と少なく、現行の方式で概ね受け入れられていると思われる。



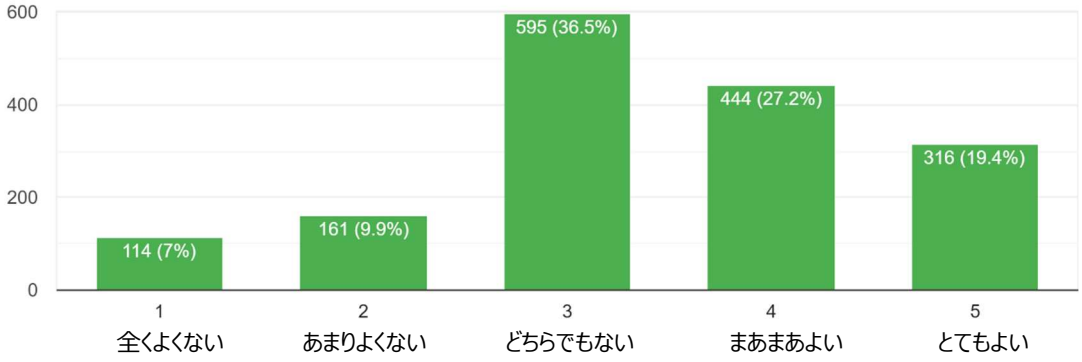
20. （現地参加者 512 件の回答）ポスター会場の環境（広さなど）は適切でしたか？

- 肯定的意見が 53%、否定的意見が 10%と例年よりも不満が少なかった。会場の広さや現地参加者が少なかったことに加え、蜜を避ける工夫（質疑応答時間帯をずらすなど）も環境の満足度に寄与したと考える。



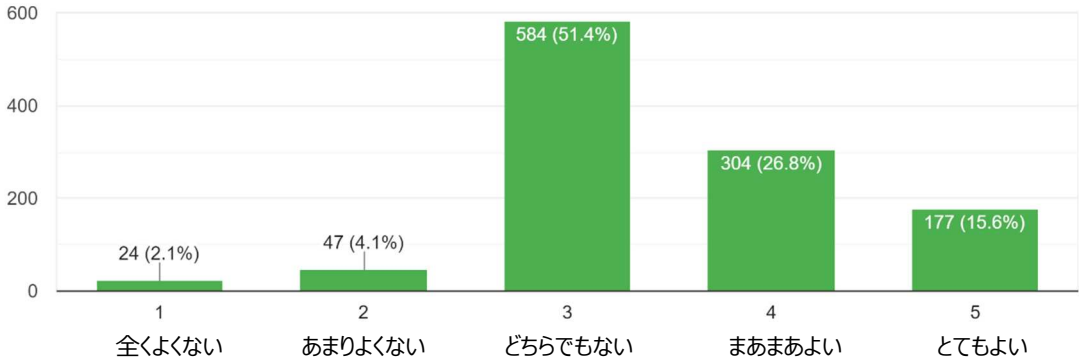
21. （WEB・現地参加者 1,630 件の回答）COVID-19 感染予防対策のため、ポスター演題の現地発表は行わず、ショートトーク動画のウェブ掲載と現地でのディスカッションといたしましたが、どう思われましたか？

- 大会史上初の試みであったが、47%の肯定的意見を認めるも、否定的意見も 17%と多めだった。自由意見では肯定的意見もあったが、e ポスターの導入、ポスターにおけるディスカッションの物足りなさなどの指摘があり、今後のハイブリッド開催における検討課題と考える。



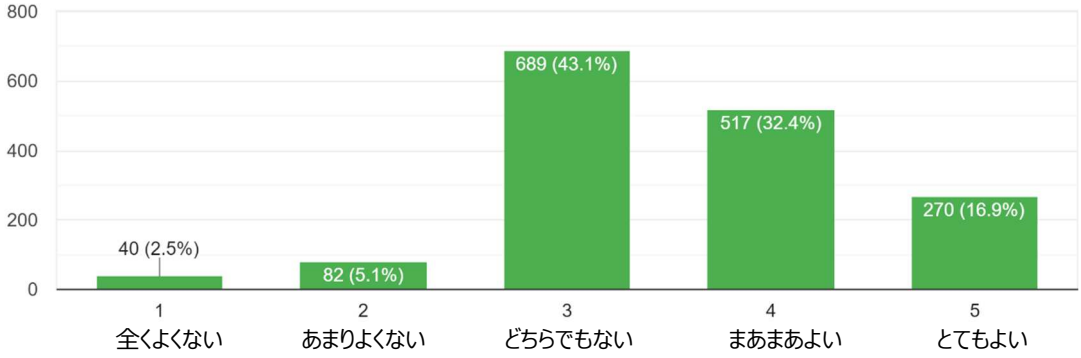
22. （WEB・現地参加者 1,136 件の回答）医学生・初期研修医セッションは有用と思われましたか？

- どちらでもないという意見が 51%と最多だったが、否定的意見は 6%と少なく、例年通りの結果だった。若手の積極的な参加を促すという点では、今後も同セッションの継続が望ましいと考える。



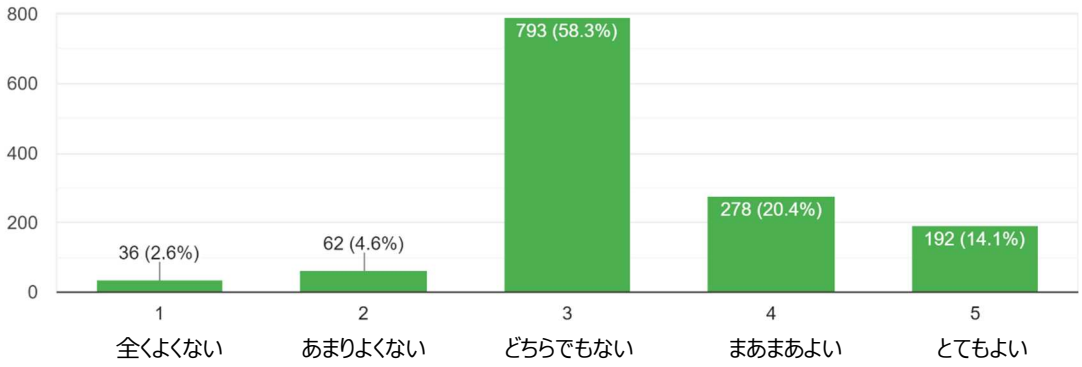
23. （WEB・現地参加者 1,598 件の回答）一般演題の海外参加者と国内参加者を同じセッションで扱っています。これは適切ですか？（日本人のみに質問）

- 肯定的意見が 49%、否定的意見が 7.6%であり、例年通り一定の支持が得られている。国際化の点でも今後も本形式の継続が望ましいと考える。



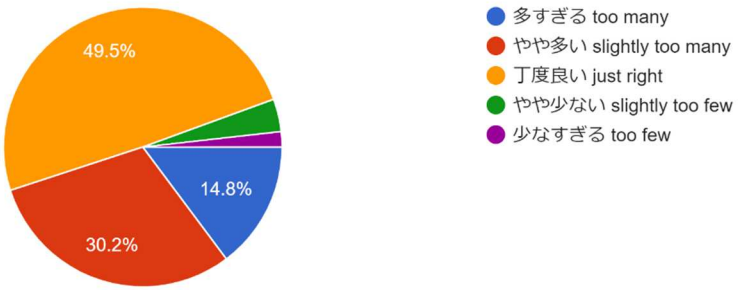
24. （WEB・現地参加者 1,361 件の回答）本大会のレジデントクリニカルトーナメントについて、どう思われましたか？（日本人のみに質問）

- 本大会のレジデントクリニカルトーナメントは大会史上初の現地と Web によるハイブリッド開催で行なった。どちらでもないという意見が 58%と最多だったが、否定的意見は 7.2%と少なく、一定の支持は得られたと考える。ハイブリッド開催は現地開催に比べると臨場感を演出することが難しく、次回以降もハイブリッド開催で行う場合の課題と考える。



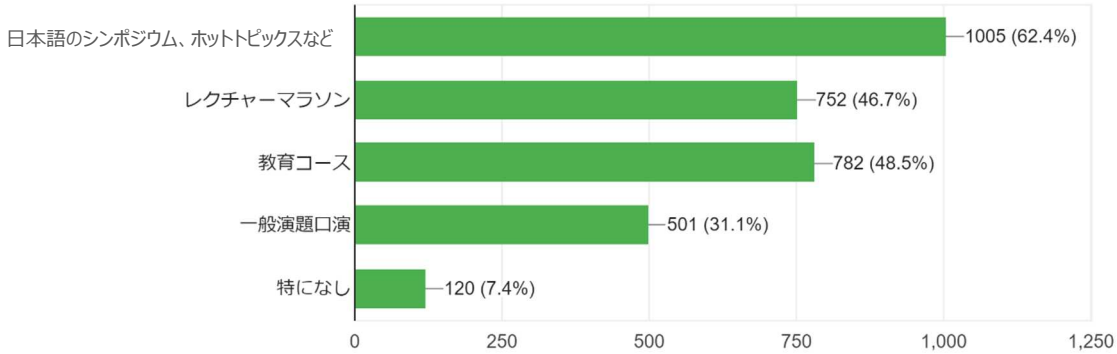
25. （WEB・現地参加者 1,694 件の回答）英語のセッション数について、どう思われましたか？

- ちょうど良いとする意見を約 50%認めたが、やや多い・多すぎるという意見も 45%を占め、拮抗していた（第 60 回大会では 55% vs. 37%）。Web 視聴可能なセッションの多くが英語だった点も「多すぎる」という印象に寄与したと推察される。自由意見では日本人の英語力の問題から、特に日本人だけのセッションを英語で行うのはかえって議論の質を低下させるという意見がみられた。今後の国際化推進に向けて、引き続き英語のディスカッションの質の向上が求められる。



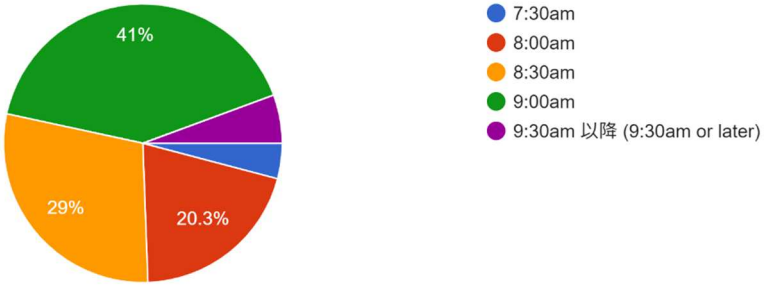
26. （WEB・現地参加者 1,611 件の回答）今回、Web ライブストリーミング配信対象外であったセッションのうち、Web ライブストリーミング配信があればよかったと思われるセッションはあったでしょうか？（最大 2 つまで選択可、日本人のみに質問）

- 希望としては、最先端、トピックスなどを取り上げているシンポジウム・ホットトピックスに加え、若手向けの教育系セッション（レクチャーマラソン 、教育コース）の要望も多かった。次大会以降、ハイブリッド開催で行う場合の Web ライブ配信セッションの選定の際、参考にすべきデータと考える。



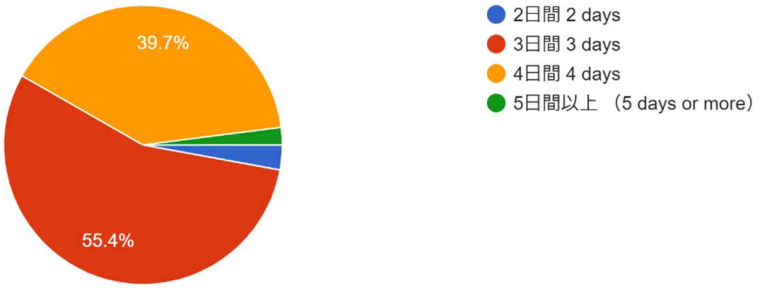
27. （WEB・現地参加者 1,777 件の回答）今後の学術大会の開始時刻について、適切と思われるものをお選びください。

- 9:00am 開始が 41%と最多を占め、現行の 8:00 開始支持は 20%と 3 番目だった。第 60 回大会と比べて両者の差が開いており、Web 参加者の意向が反映されていることが推察される。実際、自由意見では午前後半の一般口演の時間帯に Web 参加できるプログラムがなく、空白の時間帯が存在することを指定する声が多かった。



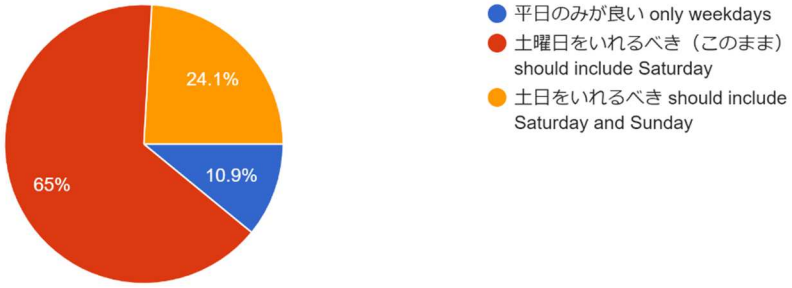
28. （WEB・現地参加者 1,777 件の回答）今後の学術大会の開催期間について、適切と思われるものをお選びください。

- 第 60 回大会では 4 日間が 51%、3 日間が比較的 45%と拮抗していたが、今回は逆転して 3 日間が 55%、4 日間が 40%と少し差がつく結果となった。背景には Web 参加者にとって Web ライブ配信が少なかったことやオンデマンド配信の導入などの影響が推察される。



29. （WEB・現地参加者 1,777 件の回答）今後の学術大会の開催曜日について、適切と思われるものをお選びください。

- 現行の土曜日を含む日程が 65%と最も多く、土日を含むべきという意見は 24%だった。この割合は第 60 回大会とほぼ同じであり、依然現行の開催曜日が最も受け入れられていると考えられる。



以下、設問 30, 31 は自由記載であり、それぞれ評価できる点、改善すべき点の 2 設問であった。重要な論点や指摘も含まれており、以下にまとめて示す。なお、重複する意見などは一部割愛した。

30. （WEB・現地参加者 238 件の回答）全体を通じて、本学術大会の運営において評価できる点があれば教えてください。

- 現地での COVID-19 感染対策に対して、現地参加者より高評価の声を多くいただいた。
- オンデマンドの導入も評価すべき点として多くの賛同をいただいた。
- ハイブリッド形式開催自体を支持する声が多かった。

- 英語セッションが充実していた。
- 現地参加しましたが、感染対策も徹底されており安心して参加できた。
- コロナ禍での開催にも関わらず大変有意義、先進的な内容の多い学会でした
- 会場での夕食配布
- オンデマンドで視聴できる点
- COVID-19 感染対策が行き届いており、安心して参加できました
- 感染対策は万全に近く評価できる
- 取り上げている内容と演者が良かった。
- 海外の演者の発表が比較的多いと思う
- スムーズに Web 視聴できた
- 非常事態宣言下でも現地参加を行った点
- 現地参加と zoom 参加が違和感なく合流していた点
- WEB 開催は映像、音声ともにスムーズでした。
- 現地でのポスター印刷代行があったのが非常に助かりました

- 座長が不在の場合，京都大学の先生が代行をしておられ，よかったと思う．前回は座長なしのセッションもそれなりに多く，なんともしがたい面があった．
- Web では見たい演題を選択し集中して視聴できた。
- 前年度はポスター発表が抄録のみでしたが、今年は録音ですが、要点を聞くことができてよかったと思います。
- Web 視聴しました．画質・音質がクリア，進行が円滑，カメラワークが適切，Live の視聴者数もわかり，満足度の高い内容でした．
- 新しい知識を得て、今後の方向性を探ることが出来る。
- Web サイトや案内メールが簡明で分かりやすかったです
- ウェブで視聴できるものが増えたこと。
- 運営はよかったです。
- 男女共同参画は非常に感銘しました。神経内科というより広くサイエンスの視点での内容であったと思います。今後も期待したいです。
- 全体的にとても良く organize されていたと感じました。
- 座長もオンラインで参加できる体制が良かったと思います。
- 配信の画像、音声の品質が全壊と比較して向上していた。
- 飲食店の閉店時間を考え、お弁当を配布頂いた臨機応変な対応は非常に素晴らしいものでした。誠にありがとうございました。
- Web 試聴がスムーズにできた
- 「Web 開催とその後の配信」という方式はとても良い。今後も続けてほしい
- ハイブリッド開催
- ネット接続は極めて良好であった。
- コロナ災禍にもかかわらず、企画、運営がすばらしかった。
- ストリーミングが見やすくてよかった
- Web 配信の採用
- 大会長のご講演が素晴らしかった。
- 大会終了後オンデマンド配信いただけるのは大変ありがたいです。
- シンポジウムのテーマやスピーカーに、興味深いもの、よい講師が多く、よかった。
- 状況次第で完全バーチャル開催に切り替えられるバックアッププランを整えた上で、ハイブリッド開催のために最大限努力されたこと。
- 広めの会場を確保したこと(感染対策の点で好ましい)
- 高齢者には Web で学会参加できるのは非常にありがたいと思います。
- 大会期間中ポスター演題が Web でいつでも見れるのは大変良い
- 興味深いプログラムが多く、バランスが取れていて非常に勉強になった。
- オンデマンド視聴が可能になったことは大きく評価できると考えます。
- Web 配信になってとても助かりました。コロナが収束した後も是非このような形で参加できるようにしてほしいです。地方に住んでいるものや、子育て中などでなかなか現地参加が難しい医師もたくさんいますので、ご検討の

ほど、よろしくお願いします。

- 現地参加の判断が大変難しい中で、様々なご決断があったものと推察しています。このような状況下では最高に良い会になったのではないかと思います。
- プログラム構成
- Web 開催を柔軟に取り入れていただきありがとうございました。
- コーナー毎に案内係がいて説明してくれた点
- WEB 参加を続けるべき
- 困難な状況のなか、できる限りの対応がなされていたことに感銘をうけ、これまでで最も印象深い学術大会でした。大会長および関連の方々の御尽力に敬意を表します．有り難うございました。
- Web 視聴の継続をしていただけると小規模病院でも診療しながら単位維持ができて大変助かります。
- このコロナ禍で開催に踏み切った勇気
- ハイブリット開催で、web 参加のみでの単位取得ができたこと
- コロナ禍にかかわらず果敢に開催までこぎつけたこと
- WEB 動画を事前にアップロードできた点。
- オンデマンドが充実している
- 各種プログラムで脳神経内科の裾野を広げる努力が見える点は評価できる。
- 臨床等で忙しいので、Web 参加とストリーミング配信はとても助かります。
- 英語のセッションが増えたこと
- 配信でも気にならないくらいに遅延もなく見れた
- 海外講演が多かった
- Live 視聴に関しては、回線トラブル等により視聴困難となることはあまりなかった。
- パラレルセッションで視聴できなかったものが多く，オンデマンドは大変ありがたいです．そもそも地方在住者にとっては開催地への移動の負担が大きく，オンラインの方がありがたいです．
- WEB 視聴は非常によい。仕事の合間に視聴できたし、交通費・宿泊費も不要で金銭的な負担、および移動による時間的負担がなかったのはよかった。海外からの有名な研究者や臨床家も現地から参加できる。コストパフォーマンスが高いと評価する。
- 昨年と異なりオンデマンド配信が行われたこと
- Web 視聴でのトラブルが極めて少なかった。
- web 視聴だと現地への交通時間が省けるので大変助かりました。映像音声など配信の問題はありませんでした。
- 緊急事態宣言に伴い、人流軽減を優先し、Web 参加を導入した点
- コロナ禍での開催にあたり、感染予防など工夫が素晴らしかった。
- オンデマンドで視聴できる点。
- コロナ流行にもかかわらず、開催方式が一貫していてこれは大変良かったと思う。
- 大変勉強になりました。素晴らしいプログラムをありがとうございました。
- ハイブリッド開催であったこと。ポスター発表が事前に見ることが出来たこと

- 現地参加しない場合の申請書に所属長のサインなしでも申請出来るように変更したこと。
- 大変な状況の中でも現地を含めた開催をしていただき少しでも交流が持てたのはよかった
- 感染対策を考えますと、これくらいの実参加人数が丁度良かったような気も致しました。
- 最終的に Hybrid 開催に変更した点
- コロナ禍での開催で大変だったと思います．はじめはシンポジストは現地参加のみとしていましたが，緊急事態宣言の影響もお考えになり，シンポジストの web 参加を認めていただいたのはよかったです．
- 1)大会腸の計らいで夕食が無償提供された心配りに感銘しました。2）レクチャーマラソン１２　会議の 9 割は無駄、は大変すばらしかったです。企画をして頂きました先生方に感謝いたします。全体に神経内科のみにこだわらず、多岐にわたる領域に及ぶセッションがあったことは大変すばらしかったと思います。
- 配信もあったので、同時刻に聴講したいセッションが重なっていてもあとで視聴できるのはよかった。感染対策もよかったと思う。
- 子育て中のため、web 開催は大変助かりました。感染状況に左右されず参加できるのでありがたいです。
- 家庭や仕事の都合で現地参加がしにくい場合にも参加する機会が得られるので、今後もハイブリッドでの開催を望みます。全日参加できない場合もポスター発表もショートトークがあると興味ある発表を見られるので、作成は締め切りもあり大変でしたが、見る側としてはとっても良いと思いました。
- 地方の零細開業医として、web 参加が可能になった事で、より積極的に学会参加への意識が高まった。
- 会場の感染対策は大変良かったと思います。また、お弁当を配布してくださったことにより、交通機関と学会場とホテル以外、本当に全くどこへも行かずに、緊急事態宣言中の出張を成し遂げられたことを、こちらの勤務先へも自信をもって申し開きができることは、大変ありがたかったです。
- ハイブリッド形式にしていただいたので、感染症を気にせず参加できて大変ありがたかったです。
- ハイブリッド講演に踏み切ったこと
- 時間や予算の制限の中で充実した内容・発表数でした。
- ギリギリまで工夫をして現地開催分の発表を確保したこと
- on demand 配信があったことです。
- コロナ禍の開催としては参加者が多く成功であったと思います。
- 過剰なコロナ恐怖症になってなかったこと
- web とハイブリッドにした点
- ショートトーク
- 早期に配信を決定したこと。決断が早く、良かったと思います。
- Web 配信がスムーズで、途中でフリーズすることなく視聴ができた点。
- WEB 視聴スムーズでよかったです。今まで参加したことのなかった閉会式なども視聴する余裕ができて有意義でした。
- 幅広い分野の話題があり良いと思いました。
- プログラムされたセッションの一つ一つが充実していました。特にホットトピクスや Neuroscience Frontier セッション等は非常に勉強になりました。
- 神経学の歴史セッションは本当に面白く、ためになりました。また期待致します。

31. （WEB・現地参加者 596 件の回答）今後改善が必要と思われる点があれば自由にお書きください。

- 他学会とも比較して「Web 配信が少なかった」というご指摘を最も多く頂いた。Web 視聴可能なプログラムのほとんどが英語だったこともあり、日本語セッションも取り入れるご要望が多かった。若手の教育目的のセッションの Web 配信を望む声も多かった。また参加費が同じであれば、Web でも同程度のセッションを見られるようにする、あるいは Web 視聴枠を制限するなら参加費を安くすべきなどのご意見もいただいた。
- 緊急事態宣言下では現地開催にこだわるべきではなく、完全 Web にすべきとのご意見もいただいた。
- Web 配信が朝一番で行われた後、午後まで視聴可能なセッションがなく、Web 参加プログラム構成の改善を求めるご要望を頂いた。またコロナ収束後もハイブリッド形式の開催を継続してほしいいうご要望も頂いた。
- Web でもより活発な双方向性のディスカッションができるようにしてほしいというご要望も頂いた。

以上のご意見、ご要望に関しては、今後のハイブリッド形式の開催において十分に討議、検討すべき課題と考える。

- 緊急事態宣言中に現地開催はおかしい。医療従事者としてどうなのか。web 開催のみにすべき。
- 単位登録の際の ID 入力がかなり面倒であったように記憶している。
- ホットトピックスは演者が全てビデオにも関わらず、現地参加でないと拝聴できないのは疑問でした。
- Web 配信の拡大。去年や今回のように Web 演題数が現地のみ講演より少ない場合は、Web のみの参加費用を低くするなど、しっかりと区別すべき。
- 現地開催にこだわらず、もっと早期にハイブリッド開催の方針を打ち出し、案内するべきだった
- 一般口演の配信も行って欲しい（ポスターは見られるが一般口演が見られないという逆転現象のため）
- 演者名での検索のみでなく各セッションのプログラムからウェブ視聴にアクセスできるとよいです．またキーワード検索は今回あまり役に立ちませんでした．
- web 視聴可能を増やしてほしい。web でも質問しやすい方法を考えていただけたら。
- 動画投稿の締め切り日を発表者目線で考えて頂いてもっと遅くして欲しい。
- コロナの状況は理解できますが、他の学会と比べて開催方式決定が遅いと思います。
- ハイブリッドならば、全てのセッションで LIVE にしていただく必要があると思います。現地に行っても演者の答えを聞くことができないのでは、わざわざ現地に行く意味がありません。感染対策で施設から禁止される場合があるのです。昨年もそれがわかったはずです。中途半端に現地開催をすると、学会開催の意義が減少すると思います。
- 緊急事態宣言が発出され、リモート可能な勤務はリモートで、と国民に行政から依頼がある中で、京都でオンサイトで学会を行ったことは、「脳神経内科の学会は、国民が我慢している中、特別に行う事ができる」と我々が思い上がっているように取られてしまうのではないかと懸念しています。
- 今後はハイブリッドという以上は全会場のライブ配信とオンデマンド配信を整備すべきである。今回は観たいものほど配信がなく極めて残念であった。またポスターは現地参加者にはせめて発表の機会を与えるべきであった。ショートトーク動画についての通知も遅すぎた。
- 朝早く夜遅く拘束されるわりに、平気で空白の 3 時間、4 時間が日中に生じていた。
- web 参加者には勤務に追われ会場に行きたくても行けず、日中の参加が難しい方も沢山いるので、昼の休憩時間や夜に視聴できるセッションを増やしたり、オンデマンド配信でも単位が取れるような工夫が欲しい。業務の

空き時間にログインしても、配信がない時間があって残念だった。規模が違うとは思いますが、内科学会総会の web が良かったです。

- 英語のセッションが多すぎる
- Web 参加の場合に参加認定される要件がわかりにくい
- web に入りにくい。もっと使い安くしてください。内科学会のほうがスムーズです。
- とても分かりにくく、使いにくかった。本来の学術集会としての活発な意見交換はほとんどなく、これを学術集会といってよいのか、はなはだ疑問である。最低限、「ライブストリーミング、発表者や参加者の双方向性は確保してほしい」。単に視聴するだけではメーカー講演会との違いがない。
- Chat への質問の入力が可能でしたが Chat に入力した質問に対してリアルタイムで回答をいただけなかったようです。英語のプレゼンテーションがうまくない人の講演は得られる情報が制限されており講演を聞くことが苦痛でした。英語のプレゼンテーションを苦手とする人が残念ながらまだ多いようです。特に英語の質疑応答が意味不明になることがありましたので質疑応答だけは日本語を許可して座長・演者・質問者のいずれかが英語でまとめるのがよいと思いました。時差の問題はありますが海外の演者もリアルタイムで参加をして欲しかったです。
- 視聴がきちんと確認されたのか、リアルタイムで確認できる方法がないと、単位認定の点で不安であった。
- 教育コース等、教育に関するセッションを Web で視聴できないのは、学会の教育に対する姿勢に対して疑問を感じました。
- 聞きたいシンポジウムやレクチャーがほぼすべて配信されてなかったのが残念でした。
- 現地参加予定だったが断念したためウェブで視聴できたプログラムが限られた。ウェブでも視聴できるプログラムを増やしてほしい。
- web 開催には現地開催にはないメリットがあることは当然のことであり，web 参加を「現地参加さぼる」といった見方で考えたことが，そもそもの間違いではないでしょうか．COVID 収束後も web での学会開催のメリットを十分理解して，時代にきちんと即応した形での開催を行う事を強く求めます．
- Web 視聴のパスワードについての記載が分かりにくく、事務局に問い合わせても回答が得られず、再度視聴ページを見てようやくログインできたが、探すための時間を 1 時間くらい費やしてしまった
- Live 配信を多くしてほしい。特に日本語のシンポジウム等
- できれば発表者は会場に居てほしいと思った
- オーガナイザーに対して参加者数（Web)のフィードバック等が欲しい。
- Web でも生発表、生ディスカッションは可能であり、積極的に取り入れるべきと思う
- 可能であれば ePoster にして頂けるとありがたい。
- 全てのセッションを Web 視聴可能にして頂きたいです。
- 日本人は日本語で話したほうが聞き取りやすい
- ライブ配信の増加
- Web 視聴できるコンテンツを増やしてほしい。特に専門医試験を受ける人のための教育セミナーなどは必須である。ポスター自体を会場に貼る必要があったのか疑問である。
- Web での視聴可能なコンテンツが極めて少なく参加費に見合わない。参加方式を決めるタイミングが早すぎて、緊急事態宣言により現地参加ができなくなり、その場合の対応が示されていなかった。

- Web で視聴できるコンテンツが去年以上に少なかったのが残念でした。
- ライブ配信のセッションを増やしてください。
- Web 視聴を行っていて、クレジットが取得出来ているのか表示されないのは不便である
- オンデマンドの見方が不便
- すべての演題を配信してほしかった。
- コロナ禍で緊急事態宣言下での集合する学会が必要か疑問でした。
- 口頭発表の際に動画再生のみの演題が非常に多くあり、発表者との相互コミュニケーション（質疑応答）が出来なかったのは学術集会として大きな問題です。Web 視聴できる内容は非常に限られており、非常に中途半端なハイブリッド開催と感じました。
- 議論が少ない
- 後日のオンデマンド視聴ができる演題が少なすぎる点、残念です。録画発表だった演題は後日オンデマンド視聴も容易にできるはずですが、していないのはなぜでしょうか。
- アプリは充実していたが、配信が直前なのでもっと早く配信して、じっくり予定を組みたかった。
- タイムスケジュールを改善できませんでしょうか。参加者は大きく分けて、「専門性を高く持っていて自分の領域外のセッションには行かない」群と「総会で一気に広く情報を集めたい」群の両方があると思います。前者の群は概ね日中にセッションが集中しているのですが、後者の群は早朝と夕方にセッションが集中していてしかも並列なのでどれか 1 つしか聴講できません。レクチャー等は 1 日中縦に並べている学会もあり（脳卒中学会や神経治療学会など）、総会の意義を考えると変更のニーズはあるのではないでしょうか。
- もう少し学会の期間内にオンデマンドでの視聴ができるようにして欲しい
- Web 配信、オンデマンド配信を増やしてほしい
- web 参加の場合にリアルタイムで配信を視聴するには日常業務の制限が必要だが、現地出張ではない場合に勤務先からの理解を得られないことが多い。後日のオンデマンド配信視聴のみの場合でも参加したことを認めるべき。今回はハイブリッド開催と謳いながら配信内容等からは現地参加を優先していると感じられた。現地不参加の手続きももっと簡略化すべき。ポスターのショートトーク動画が 2 分間というのは短すぎてポスターを全く重視していないように感じられ、今後も同様に行うのであればポスター発表自体を全て取りやめて厳選されている口演のみにしまったほうが良い。
- Web からでは視聴できないものも多かったのが残念でした。
- オンデマンドの配信が英語ばかり。内科学会に比べて配信があまりに少ない。
- 教育講演や専門医研修会をできれば連日の開催にしてほしい。一般開業医は休みが限られ、参加曜日によって、全く参加できないことが毎年続いているため。
- Hybrid 開催とするのであれば、少なくとも Web 視聴可能セッションを半数以上に増やすなど、Web 参加でも極力現地と同等に参加できるよう、進化させていただけたらと思います。
- やはりレクチャーマラソンなどのためになるセミナーを Web で拝聴したかったです
- ウェブ視聴リンク先の連絡をもつと早期に連絡してほしい。今回は 2 日前の夕方であつた。
- 配信されないシンポジウムが多すぎる。平等に扱うべきである。
- Web 視聴できないものが多かった。Web 視聴は英語だけのものが多く、理解できなかった。

- 同時並行でたくさんのセッションを行ってほしい。英語の招待講演一つだけだとそれに興味がないときはその時間視聴するセッションがなく時間が無駄なので別の会場で日本語のセッションを複数いれるなど無駄なくプログラムを入れて欲しい。一度ログインしたのにプログラムをクリックするたびにログインの再入力画面がでて何度もログイン入力をしなければいけなかったので改善してほしい。質疑応答のときはフロアも写して臨場感も出して欲しいです。
- 日本在住の場合には口演のばあいには演者は質問に答えられるようにネットで参加すべきではないだろうか
- コロナ禍での運営で色々むずかしい点が多く大変だったとは思いますが、全体を通して状況の連絡手段が複数あったせいで自分としては少々混乱しました。(個人宛メールでの連絡なのか、web サイトでの発表なのか混在していた。また、web サイト内でも、どこのページにどの内容があるのかが分かりにくかった)。また、web サイトについて、ログインが必要なサイトが、抄録をアップロードするサイト、不参加届やショートトーク動画をアップロードするサイト、大会プログラムを公開しているサイト、学会動画配信サイトなど、複数に分かれていたのも個人的には混乱しました。大会参加登録した人が、一度ログインするだけでこれらの一元化された情報にアクセスできるようなポータルとしての web サイトがあればありがたいです。
- コロナ禍での現地開催には無理があった。他学会をみならいウェブのみもしくは延期すべきであった。
- ハイブリッド形式でやっていくなら、全てのセッションを web でも配信してほしい。ポスターのショートムービーは二度手間であり、今後はやめてほしい。web ポスターなど他の学会を参考に工夫が必要だと思います。
- Web 参加や録画投稿で海外からの発表者を増やし、英語篇は世界討論して欲しい。
- オンラインで視聴可能なものが少ない。教育コースやレクチャーマラソンはオンライン視聴可能にすべき。
- web で参加できる点はよかったが、見られるものが少ないと感じた。web 参加だとどうしても仕事をしながら時間を見つけて参加になるので、出席はログインしたら、合計何時間以上視聴やオンデマンドでも OK 等にしてほしい。一つを全てみるのは難しいし、今まで学会に行っていた際も途中の移動もできたため。
- Web 視聴では、仕事をしながらみるので見たいものをみることができません。時間を合わせて見ようとしても、うまく映らないことがありました。Web 視聴は英語のものが多かったですが、日本語のものを増やしてほしい。また時間も、もっと増やしてほしいです。
- 勤務地が東京につきやむをえず現地参加を断念しましたが，Web 視聴できないセッションがあったのは残念でした
- Web 視聴は続けるべき。深夜、早朝にも放送を行うべき。
- 日本人同士は日本語で話していただく方が、ニュアンスも含め理解が進むのでありがたいです。
- 単位取得は 1 セッション以上視聴することとあるが、これも、1 セッションまるごとなのか、途中からでも 1 セッションとされるのか不明。視聴履歴もみられないから自分が 1 セッション見られたのか判別困難。
- Web 視聴できるセッションが少なすぎて学会参加費に見合わない
- 国外からの視聴を優先し，予算・設備・人の問題もあると思いますが，web 視聴可能な講演等が少なすぎると感じました．他診療科の総会では総会後しばらくすべての講演が web 視聴可と話を聞いたことがあります．今後ハイブリッドが主流になるのであれば，改善を望みます．
- 開催中の web 参加の機能を充実させてほしい。
- オンデマンドがあるとは知らなかった。web で見られるものが少なすぎた
- オンデマンド配信のページで，演題検索からみると動画があるのに，タイムテーブルからいくと「このイベントはまだ

開始されていません」と出ていて見られません。あと，オンデマンド配信対応したセッション自体が少ないと思います。リモートで参加した場合に聴ける講演がかなり限られてしまいます。

- ポスター発表の対応の仕方が分かりにくかったです。（ショート動画と現地でのディスカッション） Web の人がどうすれば良いかが分かりにくかったです。
- Web 配信が少なすぎて視聴したいと思うものが見られなかった。
- ポスター発表に伴うディスカッション、フィードバックが乏しかった。
- Web で見られるものが少なすぎる。どの時間でもなんらかの視聴ができるようにしておいてほしい。
- 日本で開催される学会で日本人同士が英語で討論するのが奇異に感じられた。するのであればもっと英語を上手なレベルまで上げるべき。
- 今回のコロナ禍で学会に必ずしも人が集まる必要がないことは多くの人が実感しているので今後もハイブリッド中心で検討してほしい。
- 子供を連れての学会（託児所は助かりましたが）は費用がかかるしとても疲れました。コロナ困難で最大に有益な変化は学会研修会のモバイル開催（あと不必要なオフィシャル飲み会がなくなったこと）だとおもいます。今後女医さんが増えることや共働き夫婦が普通になっていることを考えるとモバイル開催併用が当たり前になっていくべきかとおもいます。
- 早期の段階から Web 開催に切り替えて，内容を充実させた方がよかったのではないかと感じます．ハイブリッドといっても web 視聴できるコンテンツが限られており，学会費に見合うものとは到底思えませんでした．早期の段階で開催形式を決める必要があると思います．
- 事前登録の個人ページと視聴の個人ページが別になっているのは不便。参加登録確認証と参加証の区別が不明瞭で混乱した。
- 現地参加しないと聞けないセッションが多すぎると思いました。大学所属、病院所属にかかわらず、所属施設から出張制限などがあり、緊急事態宣言が出ている中で現地参加できる医師はそこまで多くないのではないでしょうか。若い医師は教育セッションを聞きたいと思いますし、英語のセッションばかりウェブで聞けるようにしても、あまり意味がないように思いました。神経学会が裾野を広げてより多く会員を増やす方向であるのであれば、一部の人しか興味のないセッションのみライブ配信にせず、もっとウェブ参加でも多くの人が勉強になるような開催方法をご検討いただけるといいのかと思いました。
- Webを視聴しても、その履歴が大会本部でカウントされているか、視聴者側は分からず不安です。今年の日本内科学会は、Web 視聴した翌日、視聴した累積時間が視聴サイト内に表示されており便利でした。
- ハイブリッドは便利ではありますが，実質的に参加をしているのかどうかわからないので専門医ポイントの点で問題が残ると感じました．また，上記のように Web 参加を余儀なくされたのですが，Web 視聴ができるセッションが限られたのは残念でした．自分が視聴していることで参加が認められたかどうかがその場ではわからないことには不便を感じました．視聴実績がどこかに記録され参加者からも確認できるようなシステムがあればよいと思います．発表の合間やセッションの後のしばらくの時間に，遠隔での交流空間の設定をすると実参加に近く発表者や遠くの会員同士の交流ができてよいと思います．今後はそのような遠隔交流空間の設定が学会では取り入れられていくと思います．コロナ禍で職場の会議や社会生活が激変したように，以前の現地開催形式の不便さ，Web 開催の便利さを会員は身をもって知ってしまいましたから，大人数の会員が密になって一か所

に集まる，といった旧式の学会は衰退していくと考えます．本学会がどうであれ，Web 開催をもっと便利に有効に使う学会は増えていくでしょうし，今回もそうであったように国際化の視点からは Web 開催が圧倒的に有利です．旧態依然とした学会にならないようにご検討いただきたいと思います．

- ハイブリッドの形式をとっているが、一般演題・ポスター以外のセッションでは、現地参加でしか聴講できない演題が多く、全て聴講するためには、現地参加を余儀なくされた。感染蔓延下においてリスクを最小化するために、会場での感染症対策だけでなく、大人数の移動の流れを止める配慮をすべきであり、完全 WEB 開催を決断すべきであったと思う。
- 生涯教育セミナー、専門医育成セミナーなどの Web 配信は予約人数を制限するべきではない（クレジットを取りたくても取れないことにも関係する）。教育コースなど教育に関係するセッションは Web でも配信するのは必須と思う。
- オンデマンド配信されていることを知らなかった。教育コースやマラソンレクチャーを今からでもオンデマンド配信をしてほしい。
- WEB 参加のコンテンツが少なすぎる。参加費を払ったのに、WEB 講演がない時間が多く残念だった。またオンデマンドの案内がどこにあるのかわかりにくく、全体的に案内が少なくわかりにくい。オンデマンドも、日程表からアクセスできるようにしていただきたい。
- すべてのシンポジウム、レクチャー、教育プログラムを Web 配信すべき。教育プログラムも希望者がほとんど申し込みできないのはなんとか善処すべき。
- 現地発表　録画双方の準備は負担が大きい
- ハイブリッドでもすべての講演を Web 視聴可能にしていただきたいです。せめて参加費に傾斜をつけていただきたかったです。緊急事態宣言下で On site 開催をすべきではなく、Web のみが適切だったと思います（他の学会はほとんどそうだと思います）。
- 配信が少な過ぎます。特に一般口演がリアルタイムで聞けない学会なんて、国内外合わせても私の知る限り本学会のみです。オンライン開催の質が異常に低過ぎます。現地開催に拘ってらっしゃったのはわかりますが、それでもコロナ禍であることには変わりなく、「行かない」という選択をすることは決して妥当でないことではないはずです。現地に行って然るべきのプログラムで非常にがっかりしました。質問 15 に対する回答が「全くよくない」であるのはそういう意味です。魅力的な講演も多かったからこそ、リアルタイムで聞きたかったです。是非とも改善を望みます。
- 緊急事態宣言下での現地開催は望ましくないと思います。世界中の学会が Web のみになっているのに、現地開催を強行する必要がありましたか？コロナが収束の見通しが立たなければ、Web 開催のみが良いと思います。
- 同じ参加費を支払っていて、現地参加したくてもできない人もいるので、web 参加者も同じようにすべての演題が聞けるように配慮・努力すべきである。昨年度からなにも改善しておらず、来年度以降の改善を希望する。今後は web と現地のハイブリッド開催を基本とし、同じだけの演題が聞けるようになることが望ましいと考える。
- （１）ハイブリッド開催が続く場合、日本語シンポジウムのうちホットトピックスなど、オンデマンド配信が難しい演題が多いと予想されるシンポジウムはライブ配信ありにしていただきたい。（２）同じくハイブリッド開催が続く場合、優秀演題セッションはライブ配信ありにしていただきたい。ライブで質疑応答ができない演者は最優秀賞の選考で不利になるのではないかと感じた。（３）教育講演やレクチャーマラソンは原則的にオンデマンド配信ありにしていただきたい（コロナ禍の収束後も、せっかくの教育リソースを有効活用するためにもオンデマンド配信は

ぜひ続けていただきたい）。（４）感染対策を講じた上で現地参加を推奨する一方で、感染対策のため託児所が開設されなかったことで、現地参加したくてもできない参加者層が生じたように思う。このような層のためにもライブ配信を充実させていただきたい。

- 運営会社のスタッフが多すぎる
- 最終的な開催形式の案内通知時期が遅い。オンデマンド用動画の要請があってから締め切りまでの期間が短すぎ（予行が間に合わない）。日程に余裕を持たせて連絡いただきたい。
- Web を今後も実施していただきたいのですが、Web 配信されるプログラムが非常に限定的であったのが残念です。オンデマンド配信について、プログラムには 6 月末までと記載されていますが、開始について触れてないので、未だ聴取していません。Web 視聴サイトから入れば良いのでしょうか？インフォメーションが乏しく、不親切と思います。
- 日本の学会で参加者がほぼ日本語の native speaker であるのに、全員が必ずしも得意とは言えない英語で講演や議論することは、内容の深さを担保できるのでしょうか。国際学会は別にある訳なので、基本的に日本語でお話しをお伺いしたいと思います。
- ライブ配信が少ない上に、その中で決められた時間の視聴をしないと単位取得ができないのは厳しすぎます。せめて後日配信 1 週間のうちに 5 時間以上視聴すれば取得できる、など、融通をきかせていただきたいです。
- 今後も Web での参加を継続することや、例えばポスターなどでも見た人が質問を入れたりして、その質問が掲示板などから届くシステムにするなど、何らかのやり取りが出来ればと思います。また、コロナ禍で Web の有難みを感じる方も多いので、どう両立するのかが大変重要だと思います。
- 学会員の大部分は、現在は研究には携わらず、最新の結果をいち早く・多量に必要とする臨床医であることをもっと考慮して欲しい。大学の研究者向けの学会になっている。英語セッションが最たるもので、最前線で働く臨床医の多くは、日本語での情報提供を望んでいる。余りにも、研究者寄りに学界全体がなっていると感じる。
- Live 配信が極端に少ない。そのため、参加費が現地参加と同額であるのは非常に不公平な印象である。
- Web 配信内容の充実
- 今回、他学会が web 開催を早々に決定したのに比べ、神経学会はその判断が遅すぎました。また、当初は web のみ参加では参加登録を受け付けていなかったと思いますが、それが変更になったことの周知が適切になされていなかったと思います。
- Web 開催の決定が遅すぎると思います。
- Web 用の講演ビデオ締切が早すぎる
- 限られた時間で出来るだけ必要な知識をたくさん取り入れようとする中、聞きたい演題が同時並行にあることが多すぎる。そのためには 2 日目の昼のプログラムが plenary や大会長講演、表彰演題のみの時間ではなく、もう少し違う分野の話も並行する方が良い。
- I hope for onsite meeting
- 教育セミナーが事前予約出来ず、Web 参加の場合枠を増やして欲しく思いました。
- 同じ参加費を支払ったにも関わらず Web 配信で視聴できる内容が少なく、不満しか残りませんでした。もっと Web 配信を増やして欲しかったです。
- 他学会に比べて web 視聴できる演題が少なすぎると思います。web 視聴を増やすもしくは参加費に差を設け

るなどの対応をのぞみます。

- 全体的に学会からの発表者への情報提供が不十分だった。全部の講演を web にするべきと考える。
- Web でも日本語講演や初学者向けの講演を聞けるようにして欲しい
- コロナ禍で現地参加が難しい現在、他の数多くの日本語セッションが現地では見れるの対して Web では閲覧できるセッションが英語が多すぎる印象がありました。もう少し日本語セッションが Web で閲覧頂けるようにご高配頂ければ幸いです。
- 会期が 4 日間だと，その中身が間延びしている．日中に空き時間ができることが多い．口演を同時刻に一斉に行うのではなく，バラバラにしないと一つしか聴講できないし，空き時間が増えるだけである．
- 現地開催をする場合にはその意味合い。聴衆がほとんどいない口演を現地で実施する意味。英語セッションのレベルアップ。Web の運営。
- コロナ禍で Web 参加者の方が多いのに、Web で配信されているセッションの比率が全体に少なすぎるのは良くない。学生向けの教育コースが Web で配信されておらず、学生への学会参加を勧めにくかった。Web 配信している良さを生かし、各セッションをオンデマンドで見られるようにしてほしい（日本臨床神経生理学会学術大会のように）。ショートトーク動画の作成とポスター作成で二度手間であり、Web では結局ポスターを見られないため、ショートトーク動画は不要でポスターのデータのアップロードのみでよい。レジデントクリニカルトーナメントの予選が、総正解数を競うのではなく間違えたら即敗退であったのであまり楽しめなかった。
- かなり高額の学会費を払っているのに若手の先生向けのセッションはオンデマンドであったり、午前中は、オンライン参加組は全く見る事ができるセッションがなかったり、もう少し配慮が欲しかった。
- 参加者が日本人ばかりなのに片言の英語でディスカッションしなければならないという状況は当事者にとっても視聴者にとっても建設的でないように感じた。同時通訳を活用するなど工夫してみてはどうか？
- ログイン→試聴動画を選ぶ→再度ログイン→視聴となったのでログインが維持できるとよい
- ポスター発表でショートトーク動画をアップした際に現地不参加届の表示になってしまい、修正しようと思っても変更出来なかった。その旨をメールしても対応が良くなかった。
- 現地参加のみのセッションが比較的多く、Ondemand だとどうしても質問がしづらい。もう少し Web での配信数を上げてほしい。
- web 配信が一部のセッションにとどまっており、とくに教育のセッションが少ない。
- ポスターについては、現地発表できない場合には WEB 動画だけにしてほしい。ポスター発表者の負担が大きいと医局内では話題になりました。
- COVID-19 の影響で社会情勢が不安定の中、昨年度とは違い現地参加を積極的に進めていた姿勢はいかがかと感じた。ポスター発表であったが、ショートトークどうかとポスターの 2 つを作成する手間がかかり非常に面倒であった。また学会の予行も 2 度行う必要があり、医局員にも大きな負担がかかっていた。学会の開催形式や参加登録、欠席届けの様式の変更など、直前に対応に追われていたのはわかるが、もう少し先を見通しながら早めの連絡が必要と考えます。
- チャットで質問しても無視されることが多かった。特に英語でのセミナーでは質問を英語で考えて入力しても、反映されるまでに時間がかかり採用されなかったのかもしれない。日本語での質問でも良いのかどうかがはっきりしない。その場合英語のネイティブスピーカーに日本語で質問しても、座長が英語に翻訳してくれるのだろうか？その

あたりをはっきりさせて欲しい。

- ライブストリーミングを増やして双方向性にしてほしい。現地参加にこだわるのは他の学会に比べても非常に保守的に感じる。
- 一般演題を殆ど見ることが出来ない点が大きな問題と思います。もう少し一般演題数を絞って、質の良い一般演題を Web でも見られるようにすると良いと思います。
- Web で視聴できる案内のメールの到着が遅すぎて，視聴できるかどうか不安だったのが欠点.
- 現地参加と同じものを web でもすべて視聴できるようにしてほしい
- ショートトークとポスターの両方を作成させられて負担が大きかったです。
- 他の基本的な学会と同じように　基本的に全セッションを動画記録してオンデマンドでも配信すべきである。ウェブ参加で選択肢が少なすぎる。現地参加しにくい若手の先生方に対して、全く教育的な配慮に欠けているとしか思えない。
- Web LIVE 配信されるものが少なすぎる。オンデマンド配信の Web ページが極めて使いづらい。プログラム日程表の上からリンクさせるべき。
- 今回はコロナ流行で非常事態宣言が出ていました。日本全体で外出を控えるべき時期でした。会員にとってとても大切な会ではありましたが、国民全体にこの時期どのように過ごすべきであったか医師がまず国民に示すべきだと思います。その点からは今回は完全にオンライン開催にすべきだったと個人的には感じました。万が一、感染者が出た場合にマスコミなどに大々的に報道され、学会の地位低下に繋がりかねませんでした。
- 今年のオリンピックもそうですができるかできないか悩む会は大変だったと思います。早くコロナが終息してほしい。やっぱり学会は人の出会いでありお祭りであり勉強会でありライブが良い。開業しているので WEB も便利だが京都で近かったし今年は行きたかった。
- Web 視聴コンテンツが学会全体のセッションの半分以下しかなく、何のコンテンツもない時間帯も多かった。これで現地参加者と同じ参加費を取られるのはあまりにひどい。他の学会では、学術大会の全コンテンツ web 視聴可能となっているところもある。
- WEB 参加でしたが、前回に比べると増えたとはいえ、Live 視聴できるセッションが限られていて(ほとんどが英語のセッション)、実際に視聴したいセッションがほとんどみられなかった。口演発表が全く見られないのも残念だった。緊急事態宣言下での運営は大変だとは思うが、他の学会(関係する学会で言うと、小児神経学会やリハビリテーション医学会)では Live で視聴できるセッションが(口演も含めて)もっと多かったり、ポスターを見ることが出来るので、もう少し考えて欲しい。ポスター発表のショートトーク動画のウェブ掲載についてはどこに案内があるのかわからなかった。上と関連するが、空き時間(全く参加できない時間帯、口演やポスターセッションの時間)が結構あった。仕事をしながら参加している先生にとってはそれでもいいのかも知れないが、研修届を出して、(自宅や職場では集中できないため、お金を払って)視聴場所まで確保している者にとっては、無駄な時間になってしまった(前情報をしっかり取っていれば、無駄なことはしなくてすんだ、こちらの責任もあるかもしれないが)。オンデマンド配信で見られるとは言っても、Live で参加出来れば、空き時間は出来なかった。全体として WEB 参加する人のことをあまり大事に考えていない様に感じた。
- web 視聴可能なプログラムについて事前に詳細な通達がほしかった。英語セッションばかりではなく、若手向けのセミナーやレクチャーなどを充実させてほしかった。web 参加と現地参加ではあまりに内容に差がありすぎると

思います。

- 自分の Web 視聴が正しいのかが確認できるともっと良い。
- 国際学会ではなく日本国内の学会なのに英語の発表が多すぎる。 高い参加費を支払い、勉強の機会と思って参加しているのに、参加者に理解できるような発表をすべきではないのか？ 日本人は日本語で発表すべき！ 今後、英語が増えていく方向性なら参加を見合わせたい。
- 生涯教育セミナーの Web 視聴は人数制限をなくしてほしいと思います．今回 5/22 の障害教育セミナーが満席とのことで Web 視聴できず残念でした．なぜ Web 視聴で人数制限をする必要があるのか明確に説明してほしいと思います．
- 今後新型肺炎が収束しても WEB 視聴は継続をお願いできればありがたいです。
- Web 配信が少なさすぎる 教育コースも配信すべき
- 現地参加ができない場合、発表は事前録画としても、ディスカッションには発表者が LIVE で参加できるようにするべきと思いました。
- 英語セッションでの質疑応答で双方の英語力不十分で、ちぐはぐな会話がみられた。日本語の使用も柔軟に可とすべきである。
- コロナ禍で、旅行や集会は控えることが常識的であるにも関わらず、Web 参加で視聴できるセッションが少な過ぎて非常に失望した。参加費を払って損をしたと思う。どのセッションが web 視聴できるかについて分かりやすく情報提供すべきである。
- 今回同様のハイブリッド形式で開催の場合、若手の先生にとって非常に重要な場であるポスターセッションの扱いの工夫（より積極的な意見交換の機会を提供するための工夫）が必要と感じました。例えば、各パートのポスター毎に 2 名程度指導的立場の医師を割り振って（従来の座長的立場）、発表者は少なくともその 2 名からは必ずフィードバックを受けることが出来る、など。
- 専門医単位の取り方、確認の仕方、視聴しても何か不安が残る
- オンデマンドがあることをアンケートで知ったが事前に知りたかった。
- 当日 web 配信されるプログラムが思いのほか少なかったです
- 本学術集会を開催されるにあたり、「原則現地参加とします」とのアナウンスをされておりましたが、これはどのような意図があったのでしょうか。新型コロナウイルスのパンデミック下にありながら、原則現地参加とすれば、当然参加者の感染リスクも増えるでしょうし、全国各地から学会に人が参加することでさらに感染拡大につながりかねないと思います。多くは医師が参加する学会において、そのような事態を招いてしまえば、大きな問題となると思いますが。そこまで予見できなかったのでしょうか。つまり、何が言いたいかというと、大会の運営についてはしっかり社会情勢を鑑みながら検討をして頂きたいということです。また、「原則現地参加」となっていたため、事前参加登録で現地参加しか申し込まなかったことから、Web 視聴がほとんどできませんでした。本当はできたのかもしれませんが、ホームページもわかりにくく、Web 視聴ができない状態のまま学会を終えてしまいました。ホームページをわかりやすいものとすることや、学会の参加方法について柔軟性を持たせてもよかったのではと思います。
- 原則としてすべてのセッションを Web 配信するようにしたほうが良い．現地参加しても発表用の事前収録の映像が流れるだけのセッションもあり，参加する意義に乏しい．今後も同様であれば，実参加は控えたいし，参加者も少ないため，一般演題として発表する価値もないと感じた．都道府県を越えた移動を控えるように通

達のある中で実参加が基本という連絡をしてしまう判断をしたことに学会の将来が不安になった.

- 日ごろ診療に従事する医師が勉強できる教育的なプログラムを配信してほしい。オンデマンド配信があれば更に良い。
- 教育公演も WEB 開催してほしい
- 今回に限ってはすべてウェブ参加で行うことが最も適切であったと思う。そうすれば、より多くの人がシンポジウムやレクチャーに参加でき、より有意義な学会になったのだと思う。
- オンデマンドで視聴するのに、プログラムから開けず検索をするのがとても面倒。ハイブリッド開催であっても、すべての講演セッションをその時間帯に配信してディスカッションもできるようにしてほしい。今は現地参加を前提にした時間割となっているが、すべてのセッションで WEB 中継が可能になるように大胆なプログラムの変更が必要と思われる。
- 医療従事者が緊急事態宣言下の都道府県で開催される学会に現地参加することは社会的状況を鑑みて許容されるとは言いがたいため、地域による格差を是正するためにも、今後の本学術大会は今回のようなことがないように Hybrid を原則とするべきである。緊急事態宣言が発出されたことのある都道府県が開催地であるにもかかわらず、Hybrid 開催を明確に決定した時期が遅すぎる。開催形式が Hybrid になったことが、メールやホームページの表現からはわかりにくいため、できるだけ早期の段階で、メールやホームページに明示すべきである。Hybrid 開催を決定した時期の影響と思われるが、ショートトーク動画などの締め切りが非常に短い。Web 視聴のログイン方法がわかりにくい。学会ホームページのトップページなどからすぐにアクセスできる構成にするべきである。Web 視聴のばあいに、視聴履歴を確認して参加単位登録とするのであれば、参加単位登録の対象となるプログラムが明確にわかるように日程表に記号を表記するなど、明示するべきである。今回はどのプログラムが参加単位登録の対象となるのかが非常にわかりにくい。通信の制限による影響はあると思われるが、Web 視聴で参加できることを考えると、参加単位登録の対象となるセミナーの対象人数は、1 つのセミナーにつき 500 名程度など、より多くの定員の枠を確保するべきである。
- 一般演題の討論が活発になるようにして欲しい。
- 1.この感染状況において直前まで現地開催主体で運用しようとしていた神経を疑う。当然のごとく、今年は当初よりＷｅｂ開催のみにすべきだった。 2.Web 視聴に関し、繰り返しログインを要求されたうえ、ログイン画面のパスワードが伏字にならなかった。 3.Ｗｅｂ参加の場合、自宅で休暇が取れるわけではなく、仕事の合間に視聴するかたちになった。多くの参加者がそうであったと思う。オンデマンド配信をより一層充実させるべきである。 4.ポスターの印刷サービス（Kinkos の）のメール案内がなく、ホームページを確認して初めて利用できることがわかった。周知が不十分。 5.全体として、リモートの対応がプアだった。せっかく今後の学会をリモート開催主体に移行できる貴重な機会だったはずであった。神経学会として、主催校として、全国の医学会のリモート化の先陣を切るような学会であってほしかった。
- オンデマンド動画は、日程表の該当箇所をクリックすれば出てくるようにしていただきたいです。また、学会期間中からなるべく制限なく見られるようにしていただきたいです。ハイブリッド開催という場合、基本的に全てのプログラムをライブ配信すべきではないでしょうか（一般演題も含めて）。現地参加できない演者は web 参加でライブ発表できるようにするべきです。一般演題：web でも discussion できる形式にするのがよいです。少なくとも web 書き込みで質疑応答できるようにするのがよいです。ポスター：web でもポスターを閲覧できるようにすれ

ばよいのではないでしょうか。また、web でも discussion できる形式にするのがよいです。少なくとも web 書き込みで質疑応答できるようにするのがよいです。発表のライブを録画すれば、オンデマンド用の動画作成は不要になるのではないでしょうか。事前の動画作成の負担が大きいです。

- 学会会期中に時間を空けて web 参加する人にはほぼ同時にライブ配信が縦並びであったのが、見るものが殆どなくて悲しかったです。
- Web 視聴可能な演題が少なく、Web 参加の場合には自分の発表演題以外で視聴する場面が極めて少なかった。また Web 参加者のポスターセッション閲覧、ポスターセッション討論が不可能であった点が改善すべき点と思われる。
- 部屋の関係で見えにくいところがあった。研修医・学生さんのセッションは基礎臨床入り混じっていて、臨床系が評価される傾向になったのではないかと感じた。
- Web で見ることが出来る内容が非常に少なく、費用対効果が悪いとの意見が多かったです。
- 会場の様子がわかるライブカメラや参加者カウントがあれば、混み具合がわかったかと思います。
- 現地参加しても、皆がマスク着用とソーシャルディスタンスを心掛けていたため、学会員同士の交流は全くと言っていいほど、できませんでした。この経験から、マスク着用義務がある間は、せっかく現地開催しても、あまり意味がないと思いました。また、参加者全員が医療に関わっている者である学会が、緊急事態宣言中に何千人も現地で集まる、ということに、職場や家庭、社会の理解を得ることは難しく、参加したこと自体に葛藤や後ろめたさがあり、学会を楽しむことはできませんでした。以上の経験から、しばらくの間は、無理に現地開催して参加者を現地に集めようとするのは、止めた方が良いと思います。
- 内科学会のように、Web の視聴時間の下限を決めて、それ以上視聴すればクレジット付与するとしてもよいかと思いました。また、生涯教育セミナーを受講しましたが、1 日めのセミナーが 20 分くらい早く終わってしまい、全部視聴しましたが「視聴終了」をクリックする時間が規定より早かったので、クレジットがいただけないのではないかと不安になりました。視聴終了クリック時間が「セミナー終了 15 分前～30 分後まで」としてあればよいと思いました。
- 電子抄録、アプリの利用開始がもう少し早いほうが予定が立てやすかったです。
- 聞きたい講演の WEB 配信が少なかった。
- 全参加者のうち大多数を占める Web 参加者に対してのコンテンツの提供が不十分であると感じた。後日オンデマンド視聴はできたが、開催期間中は Web 視聴できるセッションが限定されており、興味がある分野はあまり視聴できなかった。せめてシンポジウムはすべて Web 視聴できるようにしてほしかった。4 月の京都府への緊急事態宣言発令時点で、宣言の延長は容易に想定できたし、宣言下での学会開催はほぼ確定的であった。その時点からでも Web コンテンツの拡充に努めるべきだったのでは。同規模以上の関連他学会（内科学会や脳卒中学会）と比較して、感染のことを考慮した事前の準備に関して神経学会の危機管理意識がやや低いように感じられた。
- 最低でも２ヶ月前までに完全にハイブリッド講演にするのかを決定して欲しい
- ランチョンセミナーで食事をしている側で会場スタッフ通しがマスクはしているが大きめの声で会話していることが気になった
- レクチャーマラソン等、特に若手医師が視聴を希望するであろうセッションの web 配信が少ない(現地参加でも

会場が満員になっていたような人気セッションであったのにも関わらず)多忙な若手医師、あるいは子育てや介護等で現地参加が難しい医師にも学習の機会を増やすため、コロナ収束以降も web 配信の継続ならびに拡充を強く希望します。

- Web 視聴可能なセッションが増えればいいと思う. （2 年連続 Web 視聴を選ばざるを得なかったがために，楽しみにしていた岩田誠先生の講演を聞き逃すことになってしまった！）
- シンポジウム・口演セッションでの Live 配信が少なかった（見るものがない時間があり、ポスター発表ばかり視聴しました）と思います。
- もっとオンデマンドで見れるものを増やしてほしい。 抄録をもっと充実してほしい。ライブ配信の翌日からオンデマンドで見られるようにしてほしい。
- Web 視聴できる講演が少なかったような気がします オンデマンド配信の案内があまりなかったし、視聴の方法がよくわからない
- web 視聴が可能な講演・セミナーが少ない。特に若手の脳神経内科医には、主に教育講演やレクチャーマラソンを見たいと思っている者が多いと思うので、ご検討いただきたい。
- メディカルスタッフ発表の審査をさせていただいたが、審査の基準が医学的見地に偏ってしまって、多職種に参加していただく意義に乏しいものになってしまっている（受賞者も明らかにそのことを狙って演題を選んでいるように見受けられる）。それぞれの職種としての評価をするべきで、メディカルスタッフ発表も細分化、あるいは評価基準を職種にあわせるべきだと思います。
- 一般病院から参加する身としては国際化に向かうよりも日本語でわかりやすい講演がある方がありがたいです.
- ウェブでみれないものが多すぎる。視聴時間の確認が取れないのが単位の習得に不安が出ます。
- オンデマンド配信が少ないのが残念でした。非常に魅力的なシンポジウムや発表がありましたが、聴講することができませんでした。可能であれば全てを配信可能としていただきたいです。
- 全てのセッションを Web 視聴できる。時間をずらしてのプログラム構成にして多くのセッションを聞ける。
- Web 配信を日本語シンポジウム中心にしてほしい
- web 視聴できるセッションが少なすぎる。リアルタイム視聴を単位認定の条件にするなら、多くのセッションを配信できるようにするべき。単位認定の有無に限らず、聞きたいセッションがあっても、コロナの影響で多くの病院関係者は禁足を指導されている。現地参加を中心にすえるのは良くないと感じる。
- 一般口演で、発表用動画を流すだけで質問も出来ないのは、学会としての意味をなしていないと感じました。学会はディスカッション出来てこそ、その意義があると思います。今後、オンラインと現地のハイブリッド開催が定着するようなら、他学会を参考にして一般口演セッションでも質問・討議が出来るような対応が必要かと存じます。
- 活発な質疑や議論
- コロナの流行に左右されるであろうから何とも言えませんが、お勉強をする（試験勉強とか知識を仕入れるだけとか点数を稼ぐだけとか）のみであれば、オンサイトは不要。しかし研究なり交流なりさらなる神経学の発展が Mission であるのなら、その部分はライブやオンデマンドでは無理だと思いました。何のための学会なのかが強く問われる時期にさしかかったのだと思います。
- Web 視聴でも、地元の特産品が購入できるオンライン販売があるとなおよい（開催地経済への貢献）。
- プログラムから直接 Web 画面へクリックで飛べるようにしてほしい

- 年次のアメリカの神経学会やヨーロッパ神経学会のトピックスや方向性を lecture やセミナーの機会があって良いと思う。
- 調整すべき課題が多かったのであろうと同情する部分も大いに含みつつも、Web 視聴の案内が開始の 2 日前というのは「本当に視聴できるのであろうか？　不備があった場合は当日までに修正されるのであろうか？」という不安が強かったので、せめて 1 週間前には通知していただきたかった、という気持ちは拭えません。また、Web 配信のログイン画面でパスワードが「登録時のメールアドレスを」と案内されていて、一向にログインできず、上記の不安が大幅に増幅された、というのも有ります。結果的には、平素より使用している通常の会員用パスワードで入れましたが、上記 2 つの問題点が複合して大きな不安を感じてしまったので、この点については来年以降の改善をしていただきたいと思っています。
- 現地参加できない演者は WEB で質疑応答ができるとよいと思います。

総括

コロナ禍の緊急事態宣言下のなか、全体として徹底した感染対策とともに第 62 回学術大会のハイブリッド形式の開催およびオンデマンド視聴の導入は支持されたと考える。一方で COIVD-19 の猛威が続く国内情勢を鑑み、今大会に関しては早い段階で完全 Web 開催の方針を決定すべきだったという意見も見られた。今後は変異型の出現やワクチンの普及状況など時々刻々と変化するコロナ情勢を予測しながら、安全、安心を最優先に学術大会の運営方式をできるかぎり早めに決定して会員の皆様に周知することが肝要と思われる。

次大会以降、ハイブリッド形式で開催する場合、本アンケートで最も要望の多かった Web 参加の質、量の改善要望については善処する必要があると考える。

近年、国際化に向けて学術大会の英語セッションの比率が増す一方、以前より指摘されている日本人同士の英語のディスカッションに関しては深みのある討論ができないという参加者からの否定的な意見も多く、引き続き英語のディスカッションが活発になるような対策、工夫が必要と思われる。

前回大会に続き、今大会も脳神経内科ウィーク、市民公開講座はコロナ感染状況を考慮し中止とした。脳神経内科を一般の方々に知っていただくこれらの企画の再開時期についても、今後の検討課題である。

今回のコロナ禍を契機に社会全体の Web 化が進んでおり、コロナ終息後も学術大会のハイブリッド開催を望む声が大きい。今後、長期的に女性会員も増えていくことが予想され、多種多様な会員のニーズに応えながら、学会の使命を達成すべく学術大会の運営が求められる。ウィズコロナ、ポストコロナ時代を見据えた学術大会の開催方式（オンサイト vs. ハイブリッド）、運用などについては、引き続き検討すべき喫緊の課題と考える。

以上

文責　第 62 回日本神経学会学術大会大会長校（京都大学脳神経内科）事務局